

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501993		
法人名	有限会社 ライフアート		
事業所名	グループホーム福寿荘Ⅱ		
所在地	札幌市白石区北郷4条12丁目3-35		
自己評価作成日	令和3年10月20日	評価結果市町村受理日	令和3年12月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170501993-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和3年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【一人を大切に 支え合う心 安心して暮らせる社会づくり】との法人理念のもと、日々利用者の気持ち、心を大切にケアを展開しています。疾患の特徴を捉えたケアを行うことで、それぞれのペースに合わせながら、落ち着いた生活が送れるようになって来ました。毎日笑いの絶えないユニットを目指し、少人数ならではの温かい家の雰囲気を大切にしながら、それぞれのやりたいことや喜びを最大限に実現できるよう支援し、その時々を大切にしています。また、それぞれのできることを大切に考え、持っている力を発揮することで、ゲームを楽しんだり、お年寄り同士で声を掛け合い、お互いを支え合っているのがユニットの特徴です。今はコロナ渦で制限していますが、家事にも積極的に参加してもらい、その人らしさやできる力を発揮してくれていました。今でも「手伝うかい？」と声を掛けてくれます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の実践を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)		1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 利用者の2/3くらい			○	2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をスタッフ間で共有し、カンファレンスの時などには、ケアが理念に沿ったものとなっているかを意識して取り組むようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で現在は外出の制限をしているが、地域の一員としての意識を忘れず、職員は通勤時など近隣の方々との挨拶を行うようにしている。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方々に困っていることがあれば相談しに来て頂くことも可能なことを話している。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やホームの近況、防災や研修などについて報告、話し合いを行っている。その中で参加者より出た意見を運営やサービスの向上に反映している。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との直接的な連携は少ないが、報告書の提出や調査・アンケートへの回答など適宜連携を取る事が出来るように努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はしていない。また、社内や外部の研修を通して、虐待や身体拘束についての知識や理解を深め、不適切ケアにならぬよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内・社外研修などで学ぶ機会を持ち、虐待の防止に努めている。社内研修では不適切ケアについて学ぶ機会があり、ケアの在り方について理解を深め、自分たちの日頃のケアを振り返り、不適切ケアがないか見直している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学び、個々の必要性に応じて、必要な情報を伝えたり、制度活用が円滑に行える支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談及び契約の際に行っている。重要事項説明書で必ず説明をし、疑問点や不安があれば話し合いをし解消できるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で家族会が見送られているが、玄関に意見ボックスを設置し、意見や要望を表明しやすいように努めている。また来訪時などにも話しやすいよう関係づくりを心掛けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や申し送りなどで意見聞く機会を設けるようにしている。職員の意見を反映しやすいように各ユニットの代表による委員会が設立された。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己改善計画書やキャリアパスを活用し、個々の努力や実績を把握し、職場環境・条件の整備の努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修を会社で行えるような体制ができ、お互いに励まし合いながら学び、資格の取得を目指している。また、他ユニットへの助働は、様々なレベルや認知症の疾患による特徴的なケアを実際に学ぶことも目的としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	区の管理者連絡会を通じて、同業者と交流をする機会が作られ、サービスの質を向上させられるよう努めている。現在はコロナの影響で参加はできていない。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家庭訪問を行い、入居前のつながりを作っている。入居後は、安心できるようにゆっくりと関わりながら、入居者やスタッフとの関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に困っていることや不安なこと、要望を伺うようにしており、入居後すぐは、こちらから本人の様子をご家族へ電話連絡を行ったり、情報交換をしながら関係作りを行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたって、入居時間の調整や当日の食事を共にしたりなど、本人が安心できる様子を家族が理解できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意とする分野で、持っている力を発揮できる場面作りを積極的に支援している。暮らしを共にする中で、一人ひとりの持つ力や知識をスタッフも学んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡ノートを作成したり、電話での連絡、家族への手紙などを通じて連携を図るようにしている。また、ご家族との外出時などは円滑に行えるよう、打ち合わせをし、ご家族と共に必要な支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出や面会は制限されているが、親戚や知人の来訪時には、本人が戸惑わないよう配慮し、良い時間を過ごせるようにしている。また、ご家族とも連携しながら、大切な場所との関係を継続できるよう、支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが関係調整を行い、それぞれが心地よく過ごせる環境作りに努めている。また、以前から入居者が新しい入居者を支えられる関係作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、ご家族へのフォローを行ったり、必要な機関への情報提供を行ったりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が訴える力を持っている場合には、直接確認し、困難な場合であっても、日常の関わりから気持ちの汲み取りや観察を通して本人本位の検討を重ね、ご家族からも意見を頂き、ケアプランに反映させている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式などのアセスメントシートを活用しながら、本人・家族から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人やスタッフ間でも話し合いながら、現状の把握に努めている。必要時にはアセスメントシートを活用し、より具体的な把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と話したり、スタッフ間でカンファレンスを行い、現状に即したケアプランを作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画欄に気づきやケアプランに基づき実践したことを記入し、介護計画の見直しに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスやグループホームで間で連携を取りながら、その時々生まれるニーズに対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナの影響で依頼していないが、防災訓練を地域の方も参加し行っている。また訪問美容は感染対策を徹底しながら行うことで、お年寄りの満足感へつながっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所で連携を取りつつ、他の病院を受診する場合には、情報を提供するなどの支援を行っている。また、かかりつけ医より専門の病院を紹介してもらうなど、安心した医療を受けられるようになっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と連携を取り、入居者の体調管理にあたっている。また、看護師不在時も、必要に応じて電話で報告、指示を仰ぐなどしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要に応じてスタッフが病院で訪問したり、家族との連絡を取りながら、病院との情報交換に努め、できるだけ早く退院できるように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時より終末期支援の在り方について説明している。また、重度化して来た時には、医療職、家族、スタッフでの話し合いを持ち、意向を確認し、書面での確認も行っている。希望が変わった際にはいつでも言ってもらえるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、すぐに確認できるようにしている。特に発生リスクの高い転倒や骨折疑い時の対応については、ユニットのスタッフ間で繰り返し確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を年に2回行っている。現在はコロナの影響で地域からの参加はお願いしていないが、新しい職員には実際に見てもらい体験してもらうなど、全員が意識を持っているようにしている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りやユニット会議で、具体的にどのような声かけや対応が適切であるのかを検討を繰り返している。また、常にスタッフ間で相談し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ本人の希望を聴き、尊重できるようにしている。一人ひとりの力を見極め、可能な限り自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりの希望を尊重し、その人のペースに配慮した支援を行えるように、本人の希望を聴きながら、必要な調整を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服を選んでもらったり、馴染みの美容室や訪問美容を利用するなど、本人の好みや希望に沿った身だしなみ、おしゃれを支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者同士の座席の工夫やそれぞれの今の好みを反映した食事の提供を行い、集中して食事ができるように環境を整えている。また、準備や片付けは本人ができることをできる範囲で行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方には具体的な食事内容・水分量を把握し必要量が摂れるようにしている。一日トータルで、水分や栄養が摂れるようにおやつなどにも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや道具の用意など、その人の力に応じた働きかけをしている。また、ご家族と相談し、適切な道具を揃えたり、レベルに合わせた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らすため、本人の排泄の傾向を踏まえた上でのトイレ誘導を行っている。排泄チェック表を活用することで、勤務者が排泄時間を把握し、シグナルの読み取りに活かしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品やオリゴ糖、ファイバーなどの活用や体を動かすことで、スムーズな排便を促せるよう働きかけている。それでも改善しない時には、医療連携を取り、薬剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	できるだけ本人の希望に沿い提供している。また、日数や体調をみて入浴を行い、本人が安心して心地よく入浴できるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースやその時々表情を見ながら、必要な休息をとれるように働きかけている。また、安心して就寝を迎えられるよう、夕食後の過ごし方への配慮も大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師及び管理者が中心となり、介護職と連携しながら、服薬の支援と症状の変化を観察し、適宜医師、薬剤師との連携を取り、調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの希望や楽しみを把握しながら、それぞれが喜びや役割を感じられるよう調整を図っている。1階のユニットとも連携を図りながら、一人ひとりの生活を支えている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナの影響で受診など必要最低限の外出のみとしているが、ホーム内で階段昇降運動をするなど本人の希望に応じて対応するようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでの預かり金とは別に、自己管理ができる人については個別でお金を所持し、使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が直接電話連絡をすることを支援したり、スタッフが仲介しながら、電話できるようにしている。また、手紙のやり取りもできるよう、働きかけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間帯に合った光の調整、季節に合った温度や湿度の調整を実施している。換気についても注意し、意識的に行っている。また、時期に合わせた飾り付けをしたり、生活感や季節感を取り入れられるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろぎの席や食事席を決めることで、馴染みの居場所を確保している。また、適宜利用者同士の関係性や本人の状況に応じて、安心できる居場所作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人や家族と相談しながら、できるだけ馴染みのものを持って来てもらえるように支援している。また安全に配慮しながらも、本人の安心につながるものや好みのものを身近に置くなど、居心地良く過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所がわかりやすいように暖簾や表札をつけるなどの工夫をしている。また、本人がヒモを引っ張ることで点灯・消灯できるよう、スイッチは使わないよう統一している。		